

## 平成30年度 全国学力・学習状況調査における

### 北九州市立 広徳 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成30年4月17日(火)に、6年生を対象として、「教科(国語、算数、理科)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思えます。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

#### 1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

#### 2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査(国語、算数、理科)

主として「知識」に関する問題(A)	主として「活用」に関する問題(B)
・身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容 ・実生活において不可欠であり、常に活用できるように なっていることが望ましい知識・技能	・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力 ・様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力

※理科については、主として「知識」に関する問題と主として「活用」に関する問題を一体的に問う。

- (2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

### 3. 教科に関する調査結果の概要

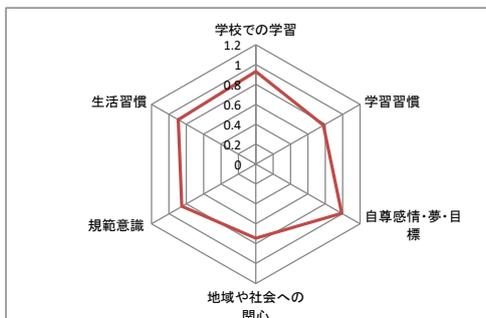
#### (1) 全国・本市の学力調査(国語A・B, 算数A・B, 理科)の結果

本年度の結果	国語A		国語B		算数A		算数B		理科	
	平均正答数	平均正答率								
本市	8.5	71	4.3	54	8.6	61	5.0	50	9.6	60
全国	8.5	71	4.4	55	8.9	64	5.1	52	9.6	60

#### (2) 本校の学力調査結果の分析

国語A	全体的な傾向や特徴など	漢字を正しく書いたり読んだりすることの正答率が上昇している。話すこと・聞くこと、書くこと、読むことにおいては全国平均を上回った。	全国平均正答率との比較 同程度
	よくてきた問題	相手や目的に応じ、自分が伝えたいことを事例を挙げながら筋道を立てて話すことや慣用語の意味の理解ができていた。	
	努力が必要な問題	目的や意図に応じ、内容の中心を明確にして書くことや文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを読むことに課題がある。	
国語B	全体的な傾向や特徴など	長い文章を注意深く読むことや話し手の意図を捉えながら聞き、自分の意見と比べるなどして考えをまとめることに課題がある。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくてきた問題	計画的に話し合うために、司会の役割について捉えることや目的に応じて複数の本を読むことは全国平均を上回った。	
	努力が必要な問題	複数の条件から自分の考えを明確にして書くことや相手の意図を捉えて聞き、内容の中心を詳しく書くことに課題がある。	
算数A	全体的な傾向や特徴など	問題文を正確に読み取ったり、必要な言葉や数式を正確に記述したりすることができていない。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくてきた問題	円周率の意味について正しく理解できている。また、百分率を求める問題の正答率が全国平均より5ポイント以上高い。	
	努力が必要な問題	小数の除法の意味を正しく理解できていない。折れ線グラフの変化の特徴を読み取ることに課題がある。	
算数B	全体的な傾向や特徴など	問題文章が長文の為、必要な情報を解釈して自分の考えを述べたり、立式した根拠を記述したりする問題に苦手意識が高い。計算技能に加え、長文の読解力が求められる。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくてきた問題	問題の文から規則性を解釈し、それを基に条件に合う答えを選択する問題では、全国平均とほぼ同程度であった。	
	努力が必要な問題	メモ情報とグラフの関連付けや総数や変化に着目して解釈し、それを記述する問題において全国平均を大きく下回った。	
理科	全体的な傾向や特徴など	科学の用語や意味を正しく理解できていない。濾過の方法など、実験の器具の細やかな操作方法についても丁寧に押さえ、自分の考えを文章にまとめる力をつけることが求められている。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくてきた問題	物の溶け方や太陽の位置の変化と光電池の電流の変化について選択する問題の正答率は、全国平均を上回った。	
	努力が必要な問題	考察する際に、問題に対応した視点で分析し、結果に基づいて端的に文章でまとめる力が求められる。	

### 4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概



質問紙調査の結果分析
<p>学校生活の中で、一人一役の責任を持った委員会活動や係活動を充実して行っていくことで、上級生としての自覚を持ち、将来への夢や希望をしっかりともっている児童が多い。学習習慣については、家庭での学習時間が短く、宿題以外でも自主学習ノートに取り組んでいるが、まだ、十分な時間に達していない。国語、算数、理科ともに、長文での読解に課題があることから、毎日の家庭学習においても、音読や読書を積極的に取り入れる必要がある。また、地域の行事への参加や興味、関心が低い結果を受け、学校生活の中での地域の方々との交流をきっかけとした地域行事の参加を呼びかけるようにしたい。</p>

### 5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

#### ① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

学力定着サポートシステム「確認テスト」を実施し、基礎的、基本的内容の定着がなされるまで、繰り返し丁寧な指導を行っていく。毎週、広徳ぐんぐん「計算タイム」、漢字検定試験での当該学年の漢字の定着を目指し全校で取り組む。また、学習での課題を確実にその日のうちに解決できるような学習指導の工夫を行っていく。

#### ② 家庭生活習慣等に関する取組

家庭学習の提出率を全学年で100%を目指すとともに、自主学習ノートマニュアルの配布や、自主学習のよいノートモデルを紹介していくなど、自主学習に取り組む環境作りをする。また、各学年において生活科や総合的な学習の時間に地域の方との積極的な関りをきっかけとした地域活動への参加を呼びかけていく。